1810 8
山陰中央新報

県立大「市民研究員」が始動

浜田 制度説明会に45人

島根県立大が今秋創設した全国初の市民研究員制度の説明会「北東アジア研究交流懇談の集い」が七日、浜田市野原町の同大で開かれ、関心を寄せて出席した県内外の四十五人が、教員と意見を交換した。今後、正式登録を経て、研究会などに参加しながら、個別研究や大学院生との共同研究に取り組む。

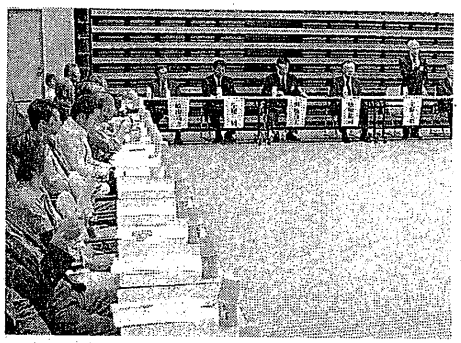
同制度は、大学の北東アジア地域研究センターと、大学院が連携する独自の人材育成事業「実践的北東アジア研究者の養成プログラム」の一環。

センターの研究員として登録した市民は、得意分野で、大学院生に助言する一方、自らの研究活動に、大学の資料や施設などを利用できる。大学院生とテーマが合致し、共同研究に取り組む場合は、海外調査や書籍収集費が助成される。

同日は松江市や浜田市、境港市のほか、広島県内からも参加があり、各自が北東アジアの経済、漁業問題、満蒙（まんもう）開拓団など、専門や興味を持つ分野で発表。施設見学や教員、大学院生との交流会もあり、親睦（しんぼく）を深めた。

宇野重昭学長は「二十一世紀の高等教育は地域に開放され、いつでも勉強できる『ユニバーサル・アクセス』が進む。この制度は、先駆けとなる試み」と期待を寄せた。

市民研究員の登録締め切りは十七日。所定の申込書に記入し、同大に送付する。問い合わせは、同大事務局（電話0855・24・2201）。



市民研究員制度の説明に聴き入る参加者＝浜田市野原町の島根県立大